



認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627

Tel/Fax 052-803-1649 <http://rasa-japan.com>

e-mail info@rasa-japan.com

2017.12
Vol.26



名誉理事長
ジョン・シーランド神父

◆はじめに

RASAの役員を代表いたしまして皆様方のご幸とクリスマスのお喜びを申し上げます。

そして、フィリピンの子供たちの支援を心がけてくださっている皆さまに厚くお礼を申し上げます。

ご存知のように、私たちは毎年2月フィリピンの田舎で学ぶ場所に困っている人たちに学校を寄附いたします。加えて食事にも困っている子供達に給食支援活動も行っております。多くの子供たちが毎日おいしい昼ご飯を食べております。

私たちRASAが、このようなプログラムを実行継続できておりますのはとりもなおさず皆様のご寄附のおかげでございます。改めて厚くお礼申し上げますとともにこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

◆RASAは人間道場

さて私は、このニュース・レターの紙面を借りて、ボランティアに参加する意義について少し触れたいと思います。

余計なことを言うようですが、フィリピンに行ってホストファミリーや子供たちと交わるといことは大変貴重な体験なのです。この活動を始めたときから私はボランティア学生たちが現地で見たり行ったりしたことにより、その学生がどのように人間として成長したかを幾度となく、何人も見ました。

多分RASAはフィリピンでのボランティア活動によって人生観を見直す場というか道場を提供していると思います。

私が子供のころカトリックのシスター達に教えられました。アフリカの貧しい子供たちについてでした。彼らは助けてもらうため、小銭を恵んでもらう小さな子ブタの貯金箱をいつも机の上に置いていました。

その後、私は似たような話はアフリカだけでなく同じような話を他の国でもたびたび読んだことがあります。

しかし、私はアフリカの貧しい子供について読んだり、写真を見ても彼らの貧しさが私の心の深いところまでは入って来ませんでしたから実感が湧きませんでした。

◆ホームステイで学ぶ

フィリピンでのボランティア活動を行ってから、人々がどのような生活を送っているかをホームステイで実際に体験しました。

私は、フィリピンの人々が日常生活を送る上で直面している厳しい条件があることも知ることができました。

私はボランティアたちがこの体験をすると考えます。彼らの現地での主な仕事は、セメントをブロックの穴に詰めたり、砂をふるったり、ペンキを塗ったり、バケツリレーでの砂運びなどです。が・・・。

◆貧しさの体験こそ貴重なもの

私は彼らの大切な仕事はホストファミリーの家に泊まり、食事をし、教会をはじめ、あちこちに一緒に出かけるなど、家族の一員の体験だということです。その中で、ボランティアたちは貴重な異文化の体験や物質的に貧しい日常生活の反面、心の豊かさとその素晴らしさを学ぶのです。

いつの日か、ボランティアたちは社会のリーダーになるでしょう。また彼らは自らの体験や見たことを家族、知り合い、友人に語りかけることでしょう。このようにして、社会がフィリピンの生活実態を知るようになりフィリピンが好きになってフィリピンの発展や繁栄に関心を持ちサポートし続けることが可能となることでしょう。

神様が常に寛大な心を持つボランティアを祝福してくださいように！また、神の子キリストの誕生日であるクリスマスのお祝い準備をされるすべての方々に、神のご加護がありますように！

教育省最高表彰の連絡

本原稿の締め切り後の11月26日早朝のことでした。RASAが栄養失調学童の体質改善のため給食を実施している小学校の校長から緊急連絡が入りました。RASAが推進している給食活動は単なる食餌の提供でなく「体質の改善と強化につながる献立の工夫等」が児童の体位向上と授業への集中力を高め、一人残らず卒業と進級に結び付いたのは、想像以上の教育改善成果と高く評価されてフィリピンでは驚きの出来事だと云うことです。12月1日に教育省から表彰されることがに決まりました。

栄養失調児の給食支援 ボランティア活動

参加者：名大大学院 南山大 相山女大 愛大 至学館大（男子6名女子7名スタッフ1名 14名）

活動日程：2017年8月20日から27日

活動場所：ラグナ州カブヤオ市サウスビル第1小学校 約5600人在籍

活動内容：

21日：カブヤオ市内公設市場等で食材購入等見学。午後今春の建設学校 ママティッドを再訪。春のホスト2名が出迎えてくれ、翌日学校まで送り届けてくれた。他は午後からの活動の日本語授業の進め方等準備や打ち合わせ。

22日～25日：全校で私たちの歓迎会。演壇で学生を紹介、小学生の踊りや劇を鑑賞後給食活動。早速調理と配膳、後片付け。ボランティアも同じ食事と学校用意の食事もいただく。給食兼調理場所が狭く全員と一緒に活動は無理。午前中は2グループ（給食係と日本語授業等係）に分かれて交代で活動することにした。学校側カリキュラムもあるが、協力を得て午後は3グループに分け、5年生と6年生に授業を数回実施。大変興味を示した。授業後はお別れ会に披露するダンスの練習、互いのホストファミリーの情報交換。先生の希望で、2年生に折り紙教室も実施。日本語授業で自分の名前を書けた生徒に、用意した折紙作品や日本の菓子をプレゼントしたら、大変盛り上がる。25日授業の後、大勢の子供達とマスゲーム数種を2時間楽しみ、汗と笑顔の触れ合い。

26日：朝お別れ会の後、博物館やマニラの水族館を見学。ホテル到着後予約した場所で夕食とショッピング。数人部屋での交わりが互の親交を深める。

27日：10:30空港へ出発。19:00名古屋着後解散。

活動を振り返って

給食：生きるための食事。給食を残すのは普段食べられないので、胃が小さくて入らない。

コップ1杯のごはん(お替り可)野菜と肉(魚)のおかず、牛乳、フルーツ、水 食前にビタミン剤。

ビタミン剤の配布：普段の食生活は栄養不足で、発育期の児童に欠かせないので、今年度支給実施。

場所：5年生50人が食事後、6年生が食事。1度に50人は確かに狭すぎる。が、今年RASAが床や天井を張り照明をつけ台所改装など設備を充実。手洗い場も新設。ここより他には場所がない。

食と教育：食前に手洗後全員でお祈りをして食事開始。食事終えた人から席を立つ。全員揃って終わるのを待たないのは問題。登校拒否はない。病弱で欠席、親が働かす為の欠席はある。

ホームステイ：最初はこんな生活無理。でも慣れれば都。心の持ち方次第で、気にしなくなり、貧しい家が殆どだったけど人間関係の豊かさ、家族の温かさ、気遣いの大切さを学んだ。

仲間との関わり：初めはよそよそしくなかったが、1週間の活動をする中に人間関係の面白さを協力して、多面的に物事を見ないといけないと気付いた。



子供たちと触れ合い



食事風景



学生と子供達



日章旗に謝辞書いた



日本語授業後の記念撮影



お別れ会での学生と子どもたち

ワールドコラボ・フェスティバル

名古屋国際センター・愛知県国際交流協会・JICA中部・なごや国際交流団体協議会

4つの公益・公共団体主催

RASAは連続12回目の参加。出場のための資格審査、抽選を経てブース展示をしました。活動内容をPRする数少ないチャンスです。10月14～15日オアシス21「コラボ広場」に設置されたテントにフィリピンでの「給食活動」「学校建設活動」の写真を展示し国際協力、多文化共生の主催者テーマで参加できました。二日間RASA-2017で活動した学生たちが当番制の全員参加でブースに詰め、来場者に熱く語りかけ、有意義なフェスティバルに盛り上げました。



＜たくさんのブース訪問がありました＞

2018年春の建設活動ボランティア募集

第1回研修会 11月18日 南山大学



＜ボランティアの不安解消 研修風景＞

第2回研修会予定 12月9日

第3回研修会予定 1月20日

★2018年春の学校建設ボランティア募集

夏休みを挟んで2017年の南山大、椋山女学園大 RASAメンバーが全精力を結集して活動しました。両大学とも予定を大幅に上回る活動を展開、配布ビラは合わせて3,000枚を超えました。南山大はドミンゴス教授、椋山女学園大は深谷教授の多大な協力が得られ、南山大11回椋山女学園大4回の授業を利用したプレゼンテーションの機会を得ました。個別説明会も学内で多くの回数を重ね、その結果、参加希望者は目標の50名がほぼ達成できました。

現地出張 11月13日～16日

2018年春 学校建設活動事前打ち合わせと各種予約の出張

- ホームステイ地の治安と安全状況確認
- ホームステイ先としての条件適合状況確認
- 建設作業場での休憩場所確認、ミネラルウォーター施設確認
- 学校、行政、教育省、PTAのボランティア受入れ態勢の確認
- ホストファミリー申し込み者と提示条件に関して質疑応答
- 歓迎会、お別れ会、現地行楽の対応
- 貸し切りバスの予約
(空港～現地往復、マニラの観光、空港までの送り)
- マニラでの食事会場予約 (マニラ観光日の昼食、最終日の RASAフェアウェル・ディナー会場)
- マニラでの滞在でのホテル予約



＜ホストファミリー予定者と会合＞

上記全てを、RASAとして直接交渉して現地、現物確認で実行してきました。

RASAが私を変えた



2017年度ボランティア・リーダー
南山大学3年 奥田智貴

私の夢は「アンパンマン」のような人間になることです。

急に突飛なことを言い出したかと思うかもしれませんが、実はこの夢もRASAでの経験からつくられたものです。私はフィリピンで、学校がなく、勉強がしたくてもできない子供たちを見ました。ご飯を十分に食べられず、痩せこけてしまっている子供たちを見ました。そして、食べるものもなく、親もなく、家もなく、ただただ生きるためにゴミを漁っている子供たちを見ました。私はそんな子供たちを見て、この子供たちのために私はいったい何をしてあげられるだろう、ということを深く考えるようになりました。そこで行き着いた答えが、私のできる範囲で最もこの子供たちのためになることは「RASAの規模を大きくする、つまりはボランティアの人数を増やす」ということでした。なぜなら、ボランティアに行く人数が増えれば、並行して支援金も増え、多方面で多くの子供たちが救われるからです。そのため私は、ボランティアの募集人数を例年の倍の人数に目標設定し、広報活動に注力しました。主体性を持って様々な

ことに挑戦しましたが、人が思うように集まらず、本当に泣きたくなるような辛い時期もありました。それでもメンバーの協力のおかげで、例年に比べて本当に多くのボランティア参加者を集めることができました。最終的に集まった参加者数を聞いたときは、安堵と達成感、そして重圧からの解放感で、正直目頭が熱くなったのを今でも覚えています。この目標達成は一概に私の力だけでは到底成しえることができなかったと思います。今回の募集活動を通して、私に関わっていただいた全ての方々に本当に感謝の意を表したいです。

そして、広報活動のみならず、この一年間私を支えてくださった藤井御夫妻を中心としたスタッフの方々、頼りないリーダーである私のわがままを聞いて、いつも力を貸してくれたメンバーのみんなには感謝してもしきれません。

本当にありがとうございました。
そしてこれからも、RASAで学んだことをこの先の人生にも活かし、「アンパンマン」のように自分の身を粉にしてでも多くの人々を幸せにできる、そんな人間に私はなりたいと思っています。

アンパンマンの作者:やなせたかし 94歳生涯現役で死去した漫画家・作詞家 「手のひらに太陽を」が有名
やなせたかしの言葉:

「困った人にはパンを差し出す。正義を行う人は自分が傷つくことを覚悟しなくてはいけない。逆転正義とは、献身と愛だ。1人が全員を助けることは不可能です。でも一人が10人を助けられれば、そうしたことが重なって大勢の人が助かる。好きなことを見つけて、それを一生やっていってほしい。見つからないなんて言っていないで、兎に角必死で探すのだ。絶対に何か一つはあるはずだ。」

ご寄付のお願い

RASA-Japanはフィリピンに学校を寄付する数少ない団体です。私たちはフィリピンでの学校建設を1999年以降、累計28棟を599名のボランティアが参加して建設してまいりました。これからも継続してまいります。増設要望が多く来る中、願いをかなえたいと奮闘しています。現地の教育関係者からの要望に応えるため、RASAは毎年建設費として、最低500万円を予定しております。この資金は全額皆様のご寄附によって成り立っています。皆様のご支援があってこそできる活動です。フィリピンの恵まれない教育環境の子どもたちに、なにとぞ力をお貸しください。認定NPO法人のRASAへのご寄付は確定申告をすることで約40%戻ります。翌年の住民税などが約10%安くなります。

普通銀行からのお振込み			ゆうちょ銀行からのお振替	
振込先	三菱東京UFJ銀行	ゆうちょ銀行	【振替口座】ゆうちょ銀行 00890-4-31185	【振込名義】 特定非営利活動法人RASA-Japan
支店名	平針095	二一八 (ニイイチハチ) 普通		
口座 種別番号	普通 0037025	12120-35666151		
受取人名	特定非営利活動法人 RASA-Japan	トクヒ) ラサージャパン		





認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627

Tel/Fax 052-803-1649 <http://rasa-japan.com>

e-mail info@rasa-japan.com

2017.12
Vol.26



名誉理事長
ジョン・シーランド神父

◆はじめに

RASAの役員を代表いたしまして皆様方のご幸とクリスマスのお喜びを申し上げます。

そして、フィリピンの子供たちの支援を心がけてくださっている皆さまに厚くお礼を申し上げます。

ご存知のように、私たちは毎年2月フィリピンの田舎で学ぶ場所に困っている人たちに学校を寄附いたします。加えて食事にも困っている子供達に給食支援活動も行っております。多くの子供たちが毎日おいしい昼ご飯を食べております。

私たちRASAが、このようなプログラムを実行継続できておりますのはとりもなおさず皆様のご寄附のおかげでございます。改めて厚くお礼申し上げますとともにこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

◆RASAは人間道場

さて私は、このニュース・レターの紙面を借りて、ボランティアに参加する意義について少し触れたいと思います。

余計なことを言うようですが、フィリピンに行ってホストファミリーや子供たちと交わるといことは大変貴重な体験なのです。この活動を始めたときから私はボランティア学生たちが現地で見たり行ったりしたことにより、その学生がどのように人間として成長したかを幾度となく、何人も見ました。

多分RASAはフィリピンでのボランティア活動によって人生観を見直す場というか道場を提供していると思います。

私が子供のころカトリックのシスター達に教えられました。アフリカの貧しい子供たちについてでした。彼らは助けてもらうため、小銭を恵んでもらう小さな子ブタの貯金箱をいつも机の上に置いていました。

その後、私は似たような話はアフリカだけでなく同じような話を他の国でもたびたび読んだことがあります。

しかし、私はアフリカの貧しい子供について読んだり、写真を見ても彼らの貧しさが私の心の深いところまでは入って来ませんでしたから実感が湧きませんでした。

◆ホームステイで学ぶ

フィリピンでのボランティア活動を行ってから、人々がどのような生活を送っているかをホームステイで実際に体験しました。

私は、フィリピンの人々が日常生活を送る上で直面している厳しい条件があることも知ることができました。

私はボランティアたちがこの体験をすると考えます。彼らの現地での主な仕事は、セメントをブロックの穴に詰めたり、砂をふるったり、ペンキを塗ったり、バケツリレーでの砂運びなどです。が・・・。

◆貧しさの体験こそ貴重なもの

私は彼らの大切な仕事はホストファミリーの家に泊まり、食事をし、教会をはじめ、あちこちに一緒に出かけるなど、家族の一員の体験だということです。その中で、ボランティアたちは貴重な異文化の体験や物質的に貧しい日常生活の反面、心の豊かさとその素晴らしさを学ぶのです。

いつの日か、ボランティアたちは社会のリーダーになるでしょう。また彼らは自らの体験や見たことを家族、知り合い、友人に語りかけることでしょう。このようにして、社会がフィリピンの生活実態を知るようになりフィリピンが好きになってフィリピンの発展や繁栄に関心を持ちサポートし続けることが可能となることでしょう。

神様が常に寛大な心を持つボランティアを祝福してくださいように！また、神の子キリストの誕生日であるクリスマスのお祝い準備をされるすべての方々に、神のご加護がありますように！

教育省最高表彰の連絡

本原稿の締め切り後の11月26日早朝のことでした。RASAが栄養失調学童の体質改善のため給食を実施している小学校の校長から緊急連絡が入りました。RASAが推進している給食活動は単なる食餌の提供でなく「体質の改善と強化につながる献立の工夫等」が児童の体位向上と授業への集中力を高め、一人残らず卒業と進級に結び付いたのは、想像以上の教育改善成果と高く評価されてフィリピンでは驚きの出来事だと云うことです。12月1日に教育省から表彰されることがに決まりました。

栄養失調児の給食支援 ボランティア活動

参加者：名大大学院 南山大 相山女大 愛大 至学館大（男子6名女子7名スタッフ1名 14名）

活動日程：2017年8月20日から27日

活動場所：ラグナ州カブヤオ市サウスビル第1小学校 約5600人在籍

活動内容：

21日：カブヤオ市内公設市場等で食材購入等見学。午後今春の建設学校 ママティッドを再訪。春のホスト2名が出迎えてくれ、翌日学校まで送り届けてくれた。他は午後からの活動の日本語授業の進め方等準備や打ち合わせ。

22日～25日：全校で私たちの歓迎会。演壇で学生を紹介、小学生の踊りや劇を鑑賞後給食活動。早速調理と配膳、後片付け。ボランティアも同じ食事と学校用意の食事もいただく。給食兼調理場所が狭く全員と一緒に活動は無理。午前中は2グループ（給食係と日本語授業等係）に分かれて交代で活動することにした。学校側カリキュラムもあるが、協力を得て午後は3グループに分け、5年生と6年生に授業を数回実施。大変興味を示した。授業後はお別れ会に披露するダンスの練習、互いのホストファミリーの情報交換。先生の希望で、2年生に折り紙教室も実施。日本語授業で自分の名前を書けた生徒に、用意した折紙作品や日本の菓子をプレゼントしたら、大変盛り上がる。25日授業の後、大勢の子供達とマスゲーム数種を2時間楽しみ、汗と笑顔の触れ合い。

26日：朝お別れ会の後、博物館やマニラの水族館を見学。ホテル到着後予約した場所で夕食とショッピング。数人部屋での交わりが互の親交を深める。

27日：10:30空港へ出発。19:00名古屋着後解散。

活動を振り返って

給食：生きるための食事。給食を残すのは普段食べられないので、胃が小さくて入らない。

コップ1杯のごはん(お替り可)野菜と肉(魚)のおかず、牛乳、フルーツ、水 食前にビタミン剤。

ビタミン剤の配布：普段の食生活は栄養不足で、発育期の児童に欠かせないので、今年度支給実施。

場所：5年生50人が食事後、6年生が食事。1度に50人は確かに狭すぎる。が、今年RASAが床や天井を張り照明をつけ台所改装など設備を充実。手洗い場も新設。ここより他には場所がない。

食と教育：食前に手洗後全員でお祈りをして食事開始。食事終えた人から席を立つ。全員揃って終わるのを待たないのは問題。登校拒否はない。病弱で欠席、親が働かす為の欠席はある。

ホームステイ：最初はこんな生活無理。でも慣れれば都。心の持ち方次第で、気にしなくなり、貧しい家が殆どだったけど人間関係の豊かさ、家族の温かさ、気遣いの大切さを学んだ。

仲間との関わり：初めはよそよそしくなかったが、1週間の活動をする中に人間関係の面白さを協力して、多面的に物事を見ないといけないと気付いた。



子供たちと触れ合い



食事風景



学生と子供達



日章旗に謝辞書いた



日本語授業後の記念撮影



お別れ会での学生と子どもたち

ワールドコラボ・フェスティバル

名古屋国際センター・愛知県国際交流協会・JICA中部・なごや国際交流団体協議会

4つの公益・公共団体主催

RASA は連続12回目の参加。出場のための資格審査、抽選を経てブース展示をしました。活動内容をPRする数少ないチャンスです。10月14～15日オアシス21「コラボ広場」に設置されたテントにフィリピンでの「給食活動」「学校建設活動」の写真を展示し国際協力、多文化共生の主催者テーマで参加できました。二日間RASA-2017で活動した学生たちが当番制の全員参加でブースに詰め、来場者に熱く語りかけ、有意義なフェスティバルに盛り上げました。



＜たくさんのブース訪問がありました＞

2018年春の建設活動ボランティア募集

第1回研修会 11月18日 南山大学



＜ボランティアの不安解消 研修風景＞

第2回研修会予定 12月9日

第3回研修会予定 1月20日

★2018年春の学校建設ボランティア募集

夏休みを挟んで2017年の南山大、椋山女学園大 RASAメンバーが全精力を結集して活動しました。両大学とも予定を大幅に上回る活動を展開、配布ビラは合わせて3,000枚を超えました。南山大はドミンゴス教授、椋山女学園大は深谷教授の多大な協力が得られ、南山大11回椋山女学園大4回の授業を利用したプレゼンテーションの機会を得ました。個別説明会も学内で多くの回数を重ね、その結果、参加希望者は目標の50名がほぼ達成できました。

現地出張 11月13日～16日

2018年春 学校建設活動事前打ち合わせと各種予約の出張

- ホームステイ地の治安と安全状況確認
- ホームステイ先としての条件適合状況確認
- 建設作業場での休憩場所確認、ミネラルウォーター施設確認
- 学校、行政、教育省、PTAのボランティア受入れ態勢の確認
- ホストファミリー申し込み者と提示条件に関して質疑応答
- 歓迎会、お別れ会、現地行楽の対応
- 貸し切りバスの予約
(空港～現地往復、マニラの観光、空港までの送り)
- マニラでの食事会場予約 (マニラ観光日の昼食、最終日の RASA フェアウェル・ディナー会場)
- マニラでの滞在でのホテル予約



＜ホストファミリー予定者と会合＞

上記全てを、RASAとして直接交渉して現地、現物確認で実行してきました。

RASAが私を変えた



2017年度ボランティア・リーダー
南山大学3年 奥田智貴

私の夢は「アンパンマン」のような人間になることです。

急に突飛なことを言い出したかと思うかもしれませんが、実はこの夢もRASAでの経験からつくられたものです。私はフィリピンで、学校がなく、勉強がしたくてもできない子供たちを見ました。ご飯を十分に食べられず、痩せこけてしまっている子供たちを見ました。そして、食べるものもなく、親もなく、家もなく、ただただ生きるためにゴミを漁っている子供たちを見ました。私はそんな子供たちを見て、この子供たちのために私はいったい何をしてあげられるだろう、ということを深く考えるようになりました。そこで行き着いた答えが、私のできる範囲で最もこの子供たちのためになることは「RASAの規模を大きくする、つまりはボランティアの人数を増やす」ということでした。なぜなら、ボランティアに行く人数が増えれば、並行して支援金も増え、多方面で多くの子供たちが救われるからです。そのため私は、ボランティアの募集人数を例年の倍の人数に目標設定し、広報活動に注力しました。主体性を持って様々な

ことに挑戦しましたが、人が思うように集まらず、本当に泣きたくなるような辛い時期もありました。それでもメンバーの協力のおかげで、例年に比べて本当に多くのボランティア参加者を集めることができました。最終的に集まった参加者数を聞いたときは、安堵と達成感、そして重圧からの解放感で、正直目頭が熱くなったのを今でも覚えています。この目標達成は一概に私の力だけでは到底成しえることができなかったと思います。今回の募集活動を通して、私に関わっていただいた全ての方々に本当に感謝の意を表したいです。

そして、広報活動のみならず、この一年間私を支えてくださった藤井御夫妻を中心としたスタッフの方々、頼りないリーダーである私のわがままを聞いて、いつも力を貸してくれたメンバーのみんなには感謝してもしきれません。

本当にありがとうございました。
そしてこれからも、RASAで学んだことをこの先の人生にも活かし、「アンパンマン」のように自分の身を粉にしてでも多くの人々を幸せにできる、そんな人間に私はなりたいと思っています。

アンパンマンの作者:やなせたかし 94歳生涯現役で死去した漫画家・作詞家 「手のひらに太陽を」が有名
やなせたかしの言葉:

「困った人にはパンを差し出す。正義を行う人は自分が傷つくことを覚悟しなくてはいけない。逆転正義とは、献身と愛だ。1人が全員を助けることは不可能です。でも一人が10人を助けられれば、そうしたことが重なって大勢の人が助かる。好きなことを見つけて、それを一生やっていってほしい。見つからないなんて言っていないで、兎に角必死で探すのだ。絶対に何か一つはあるはずだ。」

ご寄付のお願い

RASA-Japanはフィリピンに学校を寄付する数少ない団体です。私たちはフィリピンでの学校建設を1999年以降、累計28棟を599名のボランティアが参加して建設してまいりました。これからも継続してまいります。増設要望が多く来る中、願いをかなえたいと奮闘しています。現地の教育関係者からの要望に応えるため、RASAは毎年建設費として、最低500万円を予定しております。この資金は全額皆様のご寄附によって成り立っています。皆様のご支援があってこそできる活動です。フィリピンの恵まれない教育環境の子どもたちに、なにとぞ力をお貸しください。認定NPO法人のRASAへのご寄付は確定申告をすることで約40%戻ります。翌年の住民税などが約10%安くなります。

普通銀行からのお振込み			ゆうちょ銀行からのお振替	
振込先	三菱東京UFJ銀行	ゆうちょ銀行	【振替口座】ゆうちょ銀行	
支店名	平針095	二一八 (ニイイチハチ)	00890-4-31185	
口座 種別番号	普通 0037025	普通 12120-35666151	【振込名義】	
受取人名	特定非営利活動法人 RASA-Japan	トクヒ) ラサージャパン	特定非営利活動法人RASA-Japan	





認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627

Tel/Fax 052-803-1649 <http://rasa-japan.com>

e-mail info@rasa-japan.com

2017.12
Vol.26



名誉理事長
ジョン・シーランド神父

◆はじめに

RASAの役員を代表いたしまして皆様方のご幸とクリスマスのお喜びを申し上げます。

そして、フィリピンの子供たちの支援を心がけてくださっている皆さまに厚くお礼を申し上げます。

ご存知のように、私たちは毎年2月フィリピンの田舎で学ぶ場所に困っている人たちに学校を寄附いたします。加えて食事にも困っている子供達に給食支援活動も行っております。多くの子供たちが毎日おいしい昼ご飯を食べております。

私たちRASAが、このようなプログラムを実行継続できておりますのはとりもなおさず皆様のご寄附のおかげでございます。改めて厚くお礼申し上げますとともにこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

◆RASAは人間道場

さて私は、このニュース・レターの紙面を借りて、ボランティアに参加する意義について少し触れたいと思います。

余計なことを言うようですが、フィリピンに行ってホストファミリーや子供たちと交わるといことは大変貴重な体験なのです。この活動を始めたときから私はボランティア学生たちが現地で見たり行ったりしたことにより、その学生がどのように人間として成長したかを幾度となく、何人も見ました。

多分RASAはフィリピンでのボランティア活動によって人生観を見直す場というか道場を提供していると思います。

私が子供のころカトリックのシスター達に教えられました。アフリカの貧しい子供たちについてでした。彼らは助けてもらうため、小銭を恵んでもらう小さな子ブタの貯金箱をいつも机の上に置いていました。

その後、私は似たような話はアフリカだけでなく同じような話を他の国でもたびたび読んだことがあります。

しかし、私はアフリカの貧しい子供について読んだり、写真を見ても彼らの貧しさが私の心の深いところまでは入って来ませんでしたから実感が湧きませんでした。

◆ホームステイで学ぶ

フィリピンでのボランティア活動を行ってから、人々がどのような生活を送っているかをホームステイで実際に体験しました。

私は、フィリピンの人々が日常生活を送る上で直面している厳しい条件があることも知ることができました。

私はボランティアたちがこの体験をすると考えます。彼らの現地での主な仕事は、セメントをブロックの穴に詰めたり、砂をふるったり、ペンキを塗ったり、バケツリレーでの砂運びなどです。が・・・。

◆貧しさの体験こそ貴重なもの

私は彼らの大切な仕事はホストファミリーの家に泊まり、食事をし、教会をはじめ、あちこちに一緒に出かけるなど、家族の一員の体験だということです。その中で、ボランティアたちは貴重な異文化の体験や物質的に貧しい日常生活の反面、心の豊かさとその素晴らしさを学ぶのです。

いつの日か、ボランティアたちは社会のリーダーになるでしょう。また彼らは自らの体験や見たことを家族、知り合い、友人に語りかけることでしょう。このようにして、社会がフィリピンの生活実態を知るようになりフィリピンが好きになってフィリピンの発展や繁栄に関心を持ちサポートし続けることが可能となることでしょう。

神様が常に寛大な心を持つボランティアを祝福してくださいように！また、神の子キリストの誕生日であるクリスマスのお祝い準備をされるすべての方々に、神のご加護がありますように！

教育省最高表彰の連絡

本原稿の締め切り後の11月26日早朝のことでした。RASAが栄養失調学童の体質改善のため給食を実施している小学校の校長から緊急連絡が入りました。RASAが推進している給食活動は単なる食餌の提供でなく「体質の改善と強化につながる献立の工夫等」が児童の体位向上と授業への集中力を高め、一人残らず卒業と進級に結び付いたのは、想像以上の教育改善成果と高く評価されてフィリピンでは驚きの出来事だと云うことです。12月1日に教育省から表彰されることがに決まりました。

栄養失調児の給食支援 ボランティア活動

参加者：名大大学院 南山大 相山女大 愛大 至学館大（男子6名女子7名スタッフ1名 14名）

活動日程：2017年8月20日から27日

活動場所：ラグナ州カブヤオ市サウスビル第1小学校 約5600人在籍

活動内容：

21日：カブヤオ市内公設市場等で食材購入等見学。午後今春の建設学校 ママティッドを再訪。春のホスト2名が出迎えてくれ、翌日学校まで送り届けてくれた。他は午後からの活動の日本語授業の進め方等準備や打ち合わせ。

22日～25日：全校で私たちの歓迎会。演壇で学生を紹介、小学生の踊りや劇を鑑賞後給食活動。早速調理と配膳、後片付け。ボランティアも同じ食事と学校用意の食事もいただく。給食兼調理場所が狭く全員と一緒に活動は無理。午前中は2グループ（給食係と日本語授業等係）に分かれて交代で活動することにした。学校側カリキュラムもあるが、協力を得て午後は3グループに分け、5年生と6年生に授業を数回実施。大変興味を示した。授業後はお別れ会に披露するダンスの練習、互いのホストファミリーの情報交換。先生の希望で、2年生に折り紙教室も実施。日本語授業で自分の名前を書けた生徒に、用意した折紙作品や日本の菓子をプレゼントしたら、大変盛り上がる。25日授業の後、大勢の子供達とマスゲーム数種を2時間楽しみ、汗と笑顔の触れ合い。

26日：朝お別れ会の後、博物館やマニラの水族館を見学。ホテル到着後予約した場所で夕食とショッピング。数人部屋での交わりが互の親交を深める。

27日：10:30空港へ出発。19:00名古屋着後解散。

活動を振り返って

給食：生きるための食事。給食を残すのは普段食べられないので、胃が小さくて入らない。

コップ1杯のごはん(お替り可)野菜と肉(魚)のおかず、牛乳、フルーツ、水 食前にビタミン剤。

ビタミン剤の配布：普段の食生活は栄養不足で、発育期の児童に欠かせないので、今年度支給実施。

場所：5年生50人が食事後、6年生が食事。1度に50人は確かに狭すぎる。が、今年RASAが床や天井を張り照明をつけ台所改装など設備を充実。手洗い場も新設。ここより他には場所がない。

食と教育：食前に手洗後全員でお祈りをして食事開始。食事終えた人から席を立つ。全員揃って終わるのを待たないのは問題。登校拒否はない。病弱で欠席、親が働かす為の欠席はある。

ホームステイ：最初はこんな生活無理。でも慣れれば都。心の持ち方次第で、気にしなくなり、貧しい家が殆どだったけど人間関係の豊かさ、家族の温かさ、気遣いの大切さを学んだ。

仲間との関わり：初めはよそよそしくなかったが、1週間の活動をする中に人間関係の面白さを協力して、多面的に物事を見ないといけないと気付いた。



子供たちと触れ合い



食事風景



学生と子供達



日章旗に謝辞書いた



日本語授業後の記念撮影



お別れ会での学生と子どもたち

ワールドコラボ・フェスティバル

名古屋国際センター・愛知県国際交流協会・JICA中部・なごや国際交流団体協議会

4つの公益・公共団体主催

RASAは連続12回目の参加。出場のための資格審査、抽選を経てブース展示をしました。活動内容をPRする数少ないチャンスです。10月14～15日オアシス21「コラボ広場」に設置されたテントにフィリピンでの「給食活動」「学校建設活動」の写真を展示し国際協力、多文化共生の主催者テーマで参加できました。二日間RASA-2017で活動した学生たちが当番制の全員参加でブースに詰め、来場者に熱く語りかけ、有意義なフェスティバルに盛り上げました。



＜たくさんのブース訪問がありました＞

2018年春の建設活動ボランティア募集

第1回研修会 11月18日 南山大学



＜ボランティアの不安解消 研修風景＞

第2回研修会予定 12月9日

第3回研修会予定 1月20日

★2018年春の学校建設ボランティア募集

夏休みを挟んで2017年の南山大、椋山女学園大 RASAメンバーが全精力を結集して活動しました。両大学とも予定を大幅に上回る活動を展開、配布ビラは合わせて3,000枚を超えました。南山大はドミンゴス教授、椋山女学園大は深谷教授の多大な協力が得られ、南山大11回椋山女学園大4回の授業を利用したプレゼンテーションの機会を得ました。個別説明会も学内で多くの回数を重ね、その結果、参加希望者は目標の50名がほぼ達成できました。

現地出張 11月13日～16日

2018年春 学校建設活動事前打ち合わせと各種予約の出張

- ホームステイ地の治安と安全状況確認
- ホームステイ先としての条件適合状況確認
- 建設作業場での休憩場所確認、ミネラルウォーター施設確認
- 学校、行政、教育省、PTAのボランティア受入れ態勢の確認
- ホストファミリー申し込み者と提示条件に関して質疑応答
- 歓迎会、お別れ会、現地行楽の対応
- 貸し切りバスの予約
(空港～現地往復、マニラの観光、空港までの送り)
- マニラでの食事会場予約 (マニラ観光日の昼食、最終日の RASAフェアウェル・ディナー会場)
- マニラでの滞在でのホテル予約



＜ホストファミリー予定者と会合＞

上記全てを、RASAとして直接交渉して現地、現物確認で実行してきました。

RASAが私を変えた



2017年度ボランティア・リーダー
南山大学3年 奥田智貴

私の夢は「アンパンマン」のような人間になることです。

急に突飛なことを言い出したかと思うかもしれませんが、実はこの夢もRASAでの経験からつくられたものです。私はフィリピンで、学校がなく、勉強がしたくてもできない子供たちを見ました。ご飯を十分に食べられず、痩せこけてしまっている子供たちを見ました。そして、食べるものもなく、親もなく、家もなく、ただただ生きるためにゴミを漁っている子供たちを見ました。私はそんな子供たちを見て、この子供たちのために私はいったい何をしてあげられるだろう、ということを深く考えるようになりました。そこで行き着いた答えが、私のできる範囲で最もこの子供たちのためになることは「RASAの規模を大きくする、つまりはボランティアの人数を増やす」ということでした。なぜなら、ボランティアに行く人数が増えれば、並行して支援金も増え、多方面で多くの子供たちが救われるからです。そのため私は、ボランティアの募集人数を例年の倍の人数に目標設定し、広報活動に注力しました。主体性を持って様々な

ことに挑戦しましたが、人が思うように集まらず、本当に泣きたくなるような辛い時期もありました。それでもメンバーの協力のおかげで、例年に比べて本当に多くのボランティア参加者を集めることができました。最終的に集まった参加者数を聞いたときは、安堵と達成感、そして重圧からの解放感で、正直目頭が熱くなったのを今でも覚えています。この目標達成は一概に私の力だけでは到底成しえることができなかったと思います。今回の募集活動を通して、私に関わっていただいた全ての方々に本当に感謝の意を表したいです。

そして、広報活動のみならず、この一年間私を支えてくださった藤井御夫妻を中心としたスタッフの方々、頼りないリーダーである私のわがままを聞いて、いつも力を貸してくれたメンバーのみんなには感謝してもしきれません。

本当にありがとうございました。そしてこれからも、RASAで学んだことをこの先の人生にも活かし、「アンパンマン」のように自分の身を粉にしてでも多くの人々を幸せにできる、そんな人間に私はなりたいと思っています。

アンパンマンの作者:やなせたかし 94歳生涯現役で死去した漫画家・作詞家 「手のひらに太陽を」が有名
やなせたかしの言葉:

「困った人にはパンを差し出す。正義を行う人は自分が傷つくことを覚悟しなくてはいけない。逆転正義とは、献身と愛だ。1人が全員を助けることは不可能です。でも一人が10人を助けられれば、そうしたことが重なって大勢の人が助かる。好きなことを見つけて、それを一生やっていってほしい。見つからないなんて言っていないで、兎に角必死で探すのだ。絶対に何か一つはあるはずだ。」

ご寄付のお願い

RASA-Japanはフィリピンに学校を寄付する数少ない団体です。私たちはフィリピンでの学校建設を1999年以降、累計28棟を599名のボランティアが参加して建設してまいりました。これからも継続してまいります。増設要望が多く来る中、願いをかなえたいと奮闘しています。現地の教育関係者からの要望に応えるため、RASAは毎年建設費として、最低500万円を予定しております。この資金は全額皆様のご寄附によって成り立っています。皆様のご支援があってこそできる活動です。フィリピンの恵まれない教育環境の子どもたちに、なにとぞ力をお貸しください。認定NPO法人のRASAへのご寄付は確定申告をすることで約40%戻ります。翌年の住民税などが約10%安くなります。

普通銀行からのお振込み			ゆうちょ銀行からのお振替	
振込先	三菱東京UFJ銀行	ゆうちょ銀行	【振替口座】ゆうちょ銀行	
支店名	平針095	二一八 (ニイイチハチ)	00890-4-31185	
口座 種別番号	普通 0037025	普通 12120-35666151	【振込名義】	
受取人名	特定非営利活動法人 RASA-Japan	トクヒ) ラサージャパン	特定非営利活動法人RASA-Japan	

